

第1回加東市教育振興基本計画策定委員会会議録

1 開会・閉会の年月日及び場所

平成22年6月30日（水）午後3時00分～午後4時35分

滝野図書館3階会議場

2 出席者

策定委員 市長、大島委員、堀井委員、吉川委員、内橋委員、鷹尾委員、井村委員、竹内委員、烏田委員、門脇委員、福田委員、圓井委員、赤松委員

事務局 大畑教育部長、内藤教育総務課長、藤原学校教育課長、丸山生涯学習課長、大西人権教育課長、末廣中央図書館長、原主査

3 内 容

1. 開 会

2. 市長あいさつ

・教育基本法が改正され、加東市においても地域の实情に合った教育振興基本計画を策定する。

・加東市総合基本計画を手本とした中で策定に取り組んでいただきたい。

3. 策定委員会設置要綱等の説明

4. 委員委嘱

・机上交付による委嘱

5. 委員紹介

6. 事務局職員紹介

7. 役員選出（委員長・副委員長の選出）

・策定委員会設置要綱第5条の規定により委員の推薦によって委員長及び副委員長を選出。大島委員長、堀井副委員長が推薦され選出。

8. 委員長あいさつ（要旨）

・皆様方のご意見をたくさんいただきながら、加東市独自の立派な基本計画ができるようお互いに頑張りたいと思いますので、ご協力よろしく願いいたします。

9. 諮 問

・諮問第3号、教育基本法第17条第5号の規定に基づき加東市教育振興基本計画を策定したいので、諮問いたします。平成22年6月30日、加東市長安田正義。

10. 議 題

## ①会議及び会議録の公開について

(事務局)

色々な会議をもっているのですが、時流として情報公開の要請が強くなり、開かれた場での議論をしていただき、重要なこの教育振興基本計画の計画を作っていくたいと思っております。市民及び外部からの問い合わせに対しては公開すべしというような考え方でいます。そういったところで、会議については公開をさせていただきたい、傍聴の希望があればそれをお引き受けさせていただきたいと思っております。

また今回のこの策定委員会につきましては、個人のプライバシーに係わるようなことはおそらく出てこないだろうと思っておりますので、原則公開という形で進めさせていただけたらなと思っております。

さらに会議録につきましても、先に述べました要請に従い会議の音声は録音させていただいております。内容につきましては、表現筆記というような形になるかと思っておりますが閲覧に供したいと思っておりますし、ホームページ上での公開も考えております。そういったことにより最大限開かれた会議にしていきたいと思っておりますので、委員の皆様方のご理解ご協力いただきたいと思います。

— 承 認 —

## ②加東市教育振興基本計画策定の趣旨説明

(事務局)

続きまして教育振興基本計画策定の主旨説明を、資料No.3に基づきまして順を追って説明させていただきたいと思っております。先ほど設置要綱等の説明の中にも市長のあいさつの中にもございましたが、教育基本法が改正され、教育振興基本計画を国も県も定めることとなり、地方公共団体においてはそれらを参酌しながらその地域・地方の実情に応じた教育振興のための基本計画を定めるよう努めなければならない。

つまり努力目標のようになっているわけですが、近隣の市町は昨年度において定めるところが非常に多くなります。少し出遅れた感はありますが、加東市についてもこれを定めたいと思っております。

この計画自体は教育委員会の計画ではなく加東市の基本計画ということになっております。

ゆえに本日市長からの諮問という形を採らせていただきましたし、「加東市」という一つの団体としての教育目標、教育委員会からいわば一つ上のレベルでの大きな教育振興基本計画という形になるわけです。そういったところでの策定をしていただきたいというふうに思っております。

本日もお手元には国の教育振興基本計画ならびに県の同計画の資料を配布させていただいております。ならびに近隣の市の基本計画も配付させていただいております。それらも参考にしながらやっていけたらと思っております。

国における教育振興基本計画ですが、これにつきましてはお手元にそのカラー刷りのものをお配りしております。ページを1枚めくっていただきますと、国の教育振興基本計画の基本的目標というのが4つ挙がっております。

まず基本的目標の1では、社会全体で教育を向上させるものということ、続いて基本的目標の2では、個人を尊重しつつ能力を伸ばし、個人として社会の一員として生きる基盤を育てることが唱えられております。3につきましては大学の関係のことが記載されております。そして基本的目標の4では私立学校のこととともに子どもたちの安全安心の確立とともに非常に質の高い教育環境を作るというふうになっておりまして、いずれも大きな基本的目標が4つ掲げてあり、その下に個別の教育方針が箇条書きになっています。教育をめぐる現状と課題といったところからさらに細かく現在の日本の教育環境、こういったものが目指すべき方向性などとい

ったことがかけられております。

続きまして、県のものにつきましては「ひょうご教育創造プラン」という名称で呼ばれています。ページ数としては大変ボリュームがあり、100数ページに及んでおります。字が細かくて読みづらいとお感じになる部分もあろうかとは思いますがご辛抱いただけたらなと思います。それと概要版、ダイジェスト版といえるものでございまして、見開き右側のページの下半分、基本理念というところで、目指すべき人間像として「知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自らの夢や志の実現に努力するひと」、「ふるさとを愛し、互いに支え合い、協力しながら、明日を切り拓いていくひと」、「社会の構成員としてちゃんと責任を持って主体的に行動し、日本の未来を担うひと」、「わが国の伝統を基盤として、世界に通用する力を培い、高い志を持って国際社会に貢献できるひと」を挙げ、このような人間を育てていこうということで大きな目標が掲げられております。加えてそれらを実現するための施策が掲げられております。先ほども申しましたように、「ひょうご教育創造プラン」につきましては、非常に細かく計画が練られております。全て説明させていただければ何よりなのですが、時間の都合上そういうわけにもまいりませんので、その分はお目通しをいただけたらなと思います。大きな部分のご理解いただけたと思いますので、国が目指しているもの、また兵庫県が目指しているもの、こういったところを掴んでいただきながら、加東市の施策をどうするかというようなところをご検討いただけたらなと思っております。加東市の基本構想につきましても、そこに掲げておりますが、先ほど話にもありましたように「文化」という部分で記載しております。地域文化、学校教育、生涯学習、青少年育成といったところを謳っております。恵まれた自然や歴史など地域の資源を積極的に活用しながら心豊かで潤いに満ちた市民文化の実現を目指していきましようということで、市民みんなで実現を目指そうとするような内容になっております。

そして、行政は市民の学習に対する様々な要望に的確に応えようということで、いじめゼロ、不登校ゼロ、子どもも一緒に参加する地域サロン、CATVを活用した市民交流の促進というふうなところで進めていこうというようなことになっております。

ご存知のように、市の総合計画は基本構想の部分と基本計画の二つに大きく分かれております。こちらの方も、総合計画の冊子を配布させていただいております。こちらにも、一通り目を通していただけたらありがたいなと思います。加東市が目指すまちづくりというものも視野に入れながら教育の基本計画というものを作っていけたらなというふうに思っております。

以上取り留めない話になってしまいましたけれども、この教育振興基本計画がどういった目的で作られているのかといったところはお分かりいただけたかなと思います。皆様の方が私よりも教育に精通していらっしゃるのので、いちいちご説明することもなかろうとも思います。

また参考資料といたしましては、毎年発行しております「加東の教育」。これはその年に教育委員会として取組んでまいりますことをまとめているもので、そういったものも今回の会議にあたって配布させていただいております。

そういったところも参考にさせていただきながら計画を策定できたらなというふうに思っております。そういったところで、策定の主旨として説明をさせていただきました。よろしく願いいたします。

### ③教育振興基本計画の構成及び骨子について (事務局)

それでは資料No.4をご覧ください。篠山市、加古川市、小野市といった加東市にとって身近な自治体がどのような目標を教育振興基本計画に挙げているかというようなところを少し参考にさせていただけたらなというふうに思いまして、お示して

おります。

まず、篠山市の方では、第一部の序論と第二部の総論、目指すべき教育の姿という項目で具体的な目標まで盛り込んで書いております。策定の主旨につきましては、教育基本法の改正、日本の経済情勢、さらに篠山市が抱えている課題といったものも出ております。そういったところから、この計画の持つております性格につきましては、先ほども言いましたように、国あるいは県の教育振興基本計画、教育基本法の改正、こういったものを受けての策定であるというようなことが明記されております。計画の期間については、篠山市についても加古川市についても、また小野市についても5年となっております。計画の構成につきましては、要は組み立ての中身でありますとか、この基本計画がどのようなところまで対象にしているのかというところも書いております。それから、この計画を作った後、進捗状況の点検も行っているということも書いております。序論につきましてはおおむね似通った形だなという印象を受けました。第二部で、教育を取り巻く現状と課題、教育のあゆみ、教育を取り巻く環境の変化の課題、こういったところについて言及しております。

小野市につきましては、2015年問題を展望した小野市の教育という少し変わった取り組み、教育の方法を挙げております。小野市では重点施策の中で脳を鍛え心と学力を育む「おの検定」などいろんな形で脳科学といったものが特徴的に行われているのかなという気がいたしました。

篠山市、加古川市は、表現は違えど総合的に目指すべき人間像は共通しているのかなというふうに感じました。篠山市の目指すべき教育の姿としましては、教育理念として自立、愛郷、公共尊重、国際社会というようなものが挙がっております。施策の基本方向というところでは、創造性を伸ばす教育ということで、具体的には幼児教育の充実、確かな学力の確立、豊かな心、健やかな体の育成というような点が挙がっております。特色ある教育の推進というところでは体験教育の充実、国際教育の推進、子どもたちの心を支えるシステムといった項目、また学校、家庭、地域が一体となって取り組むというところでは、連帯意識の再生と地域教育力の向上、家庭の教育力の向上といった項目がそれぞれ挙がっております。

このように一つの教育の方向性、課題を示した上で、個別の取組項目をまとめるという方法で構成されております。

以下加古川市においても、小野市においても、いくつかの目指すべき人間像があり、そのための重点施策があり、またその下に個別の計画が出ている。というような、流れとしてはおおむね似たような形なのかなというふうに思っております。

ただ、やはり加東市は加東市として、子どもたちに対してどんな人間になってもらうべく子育てをしていくのか、あるいは総合計画にある目標を達成するためにどういった教育を進めていくのか。皆様方にもそれぞれに子どもたちに対して「こんな人に育てて欲しい」、「こんな大人になって欲しい」といったような色んな思いがあるかと思えます。そういったところを計画に反映し、そしてそのためにどんな教育を進めていったらいいかというふうなところでの協議を進めていってもらえれば、加東市の教育振興基本計画の大筋ができるのかなと思います。私ども今のところはその辺り全く白紙の状態として、そういったところを前提に説明させていただいて、そこから協議いただけたらなというふうに思っています。

また、加東市のところの目指すべき人間像、教育の姿というところで、例として、「人間力の育成」ということを掲げさせていただいております。これは例なんですけど、この「人間力の育成」というスローガンは、教育委員会が毎年発行しております「加東の教育」の中でこれまで平成21年、22年と教育指針に掲げております。教育振興基本計画は市教委よりさらに高次の加東市という一つの公共団体としての基本計画ですが、これにとられることなく、さらに大きなところからの目指す教育の姿を、この中で理念として掲げさせていただけたらなと思います。

ただこれも他市と同じような形で目指す人間像を培う力ということを書いており

ますが、この辺りは他と大きく変わらずにいくこともひとつの案ではありますし、いや加東市はあくまで独自の教育アプローチをするのだということでありましたら、またその辺りの骨子につきましては変わっていてもいいのかなと柔軟に考えております。簡単な方法をということでしたら、やはり身内あるいは近隣のやり方を参考にしながら、ともに加東市は加東市としての地理・実情に応じた独自の教育振興基本計画ができ上がっていくのかなというふうに思っております。体系、骨子、こういったところにつきましては、こういう点ではこういう考えになって作られているということをご承知いただけたらなと思っておりますが、一つの形にカッチリ決まるとはもとより思っておりませんし、この辺りは皆さん方のそれぞれのお考えをどんどん出していただいた上で、事務局の方で検討・協議の経過を見ながら、また、まとめていけたらなというふうなことを思っておりますので、これは一つの案としてお考えいただけたらなと思います。

以上、長くなりましたが、参考にしていただけたらなと思います。

(委員長)

構成並びに骨子ということで説明を受けました。

篠山市、加古川市、小野市の例を出していただいております、事務局の案では加東市は篠山市、加古川市に類似した構成になっているようです。

一方、小野市は「おの検定」などかなり斬新なことを取り上げておられます。

まず序論があり、総論があり、目指すべき教育の姿があり、その目指す人間像であるとか施策の基本方法というものがずっと加わってきて中身が出来上がっていくという骨子、構成です。

基本理念として「人間力の育成」というのを、例として挙げていただいております。

今この場で皆様にご意見を募ってもすぐには出にくいとは思いますが、まず一つずつ片付けたいと思います。

まず構成について、第1部が序論で第2部が総論、以下目指すべき教育の姿について中身をふくらませていくという基本骨子を提案いただいております。

これについて本日すぐに結論は出ないかもしれませんが、次回にでも、だいたいこういう形ではいかがでしょうか、という形で結構ですので、ご意見を募りたいと思います。

(委員)

おそらく全体の構成は、序論、総論、各論という構成で国の方も県の方もそういう形になっていますから、統一して良いのではないのでしょうか。

やはり総論部分が違ってしまうと、国や県と子どもを育成していく道筋の統一が取れないのではないのでしょうか。

問題はそれを受けて、各論部分の人的・物的な加東市の持てる強みを活かしながらどういう子どもを育てていきたいのかという点が議論されていくのかなと思います。

各市並べて見ますと、小野市は特徴的だというお話ですが、確かに、学力向上のところにはICTという言葉がありますが、これを使っていこうとすると予算的な措置が当然要ります。

ですから、そういう面で加東市としては何を打ち出していくのか。私の専門から言わせていただきますと、読書活動の推進をして欲しいという気持ちがあります。加東市内には4つの公立図書館があります。それらと学校図書館をどうリンクし、子どもたちをいかに本に近づけ親しませるか。

一つの例ですが、加東市が物的に有している財産を今まで以上に積極的に活用し、学校とのリンクの基にもっと本に親しむ子どもたちに育てていく等、現状分析を行い、予算的な措置も踏まえた上で、何を狙っていくのかというものを一つ出して

くということが必要だと思えます。

(委員長)

他にこの段階でご意見ありませんか。

今言われたように、加東市の教育基本計画ですので、加東市の現状を踏まえて加東市の文化も含めた教育をどのように進めるかという独自のものは絶対に必要であると思えます。加東市の教育課題というのもここで挙げていただいております。

地理的条件あるいは人々の人間性等含めて加東市の良いところを伸ばしたい、というのも加味されていたらと思うわけですが、只今、構成については序論・総論・各論という形で良いのではという賛同をいただきましたが、どうでしょうか。

— 承 認 —

(委員長)

序論・総論については、事務局の方でもお考えいただきながら、皆様方からご意見がありましたら本日出していただくか、すぐ出ないようでしたら後日、事務局まで各委員さんから直接お話をいただいて、たたき台を作り上げていきたいと思えます。いかがでしょうか。

— 承 認 —

では、次の肉付けの部分です。あくまで加東市が目指す人間像、施策の基本方針というように並べて作りたいと思えます。教育振興基本計画と一口に申しましても幅が広うございます。大きく振り分けすれば、生涯教育、いわゆる社会教育の分野、それから学校教育の分野というふうに二つあるわけですが、その中でもまた各部に分かれます。そういうことを加味して今後私どもが中身を詰めていくにあたって、方法案がありましたら、出していただけないでしょうか。今後進めていく参考にしたいと思えますが、いかがでしょうか。

(委員)

先ほどお話に出ておりましたように平成21年度、22年度の2カ年にわたりまして「加東の教育」が作成されてきました。つきましては幼・小・中そして園も含めて、本当に安定した学校教育、幼稚園経営ができております。校長以下本当にリーダーシップを発揮していただきながら、「人間力の育成」とはどんなことをやっていくのか。本当に簡単ですが、将来社会人として人と関わる力、あるいは思考して判断してしっかりとした形で支えていく力、そういう基礎基本をベースにした学校教育のあり方。人への気配り思いやり、これらが活かせるような人間関係のあり方。あるいは80年の生涯を生き抜く体力。簡単に言えばこの3つの大きな柱があって、学校教育として影響力を表すことができるようになると思えます。

したがって基本的にはこの3つの大きな柱を、目指すべき教育の姿、人間像として、今まで培ってきた学校教育そして学校園経営に活かしていただけたらと思えます。

今回の学習指導要領の改訂につきましても、小学校から中学校、中学校から高校、そして大学、大学から生涯学習、生涯体育という円滑な接続といった視点が充分盛り込まれた学習指導要領になっております。教育振興基本計画におきましても、そういう基本ベースをきっちりと踏襲した形でお願いできたらと思っております。

また、今後皆様それぞれの立場からの助言をいただきながら策定して行ければと考えております。

(委員長)

事務局から、たたき台は今の時点で本当に真っ白だと言われましたが、やはりある程度たたき台が欲しいという思いもします。

もっとも先ほど具体的な提案もありましたが、他にご意見がありましたら、本日が第1回目ですので、是非この機会にお聞かせください。

(委員)

度々すみません。「加東の教育」は基本的に単年度方式で継続しながらも社会教育、学校教育、人権教育と全部含めて総合的に網羅されたものです。

一方、加東市教育振興基本計画は5年ということですが、「加東の教育」を基本的に活かしながら、そして、例えば先ほど私がご提案申し上げたようにその中の将来的にもっと読書好きの子どもを育てていくんだと、そうなると、学校教育の下に確かな学力定着という項ができて、章ができて、その中に見出しが1、2、3とあってその3つ目に読書指導の充実が来ているわけですよ。こういうところが例えばもっと強調されて大きくなっていくと、そこに対応する施策が出てくると、実際はそう簡単にはいかないとは思いますが、そういうことを例にして特徴を出すならそういう形もあり得るのではと思います。

(副委員長)

この加東市教育振興基本計画は、一応市が作るというのですが、加東市の教育は大部分を現状、教育委員会が担っております。こういう視点から考えると、教育委員会の挙げている基本的理念である「人間力の育成」とあまりにもかけ離れてしまいますと結局妙なことになってしまいますので、先ほど言われたように、教育委員会の基本理念をまず土台に据えたらどうかと思います。

我々委員と教育委員会と違うことを考えても、たぶん似たような表現になると思います。

もう一つは、これは課題だと思うんですけども、連携の問題がありますね。

いわゆる就学前教育から小学校、中学校というタテの連携ですね。保育園・幼稚園から小学校1年生へ上がったときに子ども達が躓いてしまう。そういう環境が変わったときの各教育機関の連携も一つ大事な視点として織り込んでいかなければならないと思います。

次にヨコの連携ですが、普段我々が生活の拠点としている家庭、地域、学校、職場の連携が効かないと、なかなか子ども達は勿論、我々大人も高齢者も育たないというものです。

このタテとヨコの連携という視点は大切にして骨子に織り込みながら流れにできたら良いと思います。

後は加東市らしさですね。小野市は全国一子どもが多く本を読むという記録を持っています。これにはちょっとしたカラクリがあり、市内の学校全てのクラスに特定の本を推薦で100冊くらいずつ貸し出しています。その分を貸し出し冊数に算入するので、統計上の数字で見るとダントツの多さになっています。実際にどれだけ本が読まれているかはともかく、そういった一種の仕掛けですが、それはそれなりに環境整備になって、実際本を読む子どもが増えた。加東市も大いに努力しておられると思いますが、そういう仕掛けのようなものをこの施策の具体的な方向、提案の中で盛り込めたら良いかなと思います。

もっと具体的に、小野市に勝つものは何かと言えば、図書館とCATVです。これを徹底的に教育に活かして行けば強いと思います。

例えばCATVを使って市内の小中学校でカメラを通して一斉に授業が出来るし、将来的にはちょっと夢のような話かもしれませんが、リンクして学校間で交流したり、市民と交流したりも出来るかなと思います。

後、図書館を上手く使うというのは、現在色々な事情があって「やしろ国際学習

塾」の図書室はまだ廃止できていませんが、そこにある本を全て配達したらクリアできると思うので、図書室を置く必要が無くなるのではないのでしょうか。

そういう風に皆で汗水流して頑張れば非常に面白い振興計画が出来るのではないかと、大変楽しみにしています。

(委員長)

かなり具体的などころまでお話いただきました。各事務局には、たたき台を作っていく上で皆様から頂いたご意見は大いに参考にさせていただけると思います。

(委員)

加東市の学校は、電子黒板の設置にしても他市よりも恵まれていると思います。それをもっと加東市の教育の特徴として活用してはいかがでしょうか。

私は、特別支援教育の推進に力を入れていただきたいと思い、委員として参加させていただいておりますが、教育のベースとなる一番大事なところなので、きちっと盛込んでいただきたいと思っています。

先ほどのお話の中でありましたように、幼・小・中の連携も大変大事だと思います。今年、小学6年生から中学校に上がった子で躓いている子がたくさんいます。

そういうことにも取組みたいと思うのと、子どもに対して私たちが感じることと、学校の先生が感じることとの差がずいぶんあると感じます。「こんなこと言われた」と訴えても「そんなの大丈夫ですよ」と学校で受け流されるという話も聞き、疑問に思いました。

(委員長)

せっかくの機会ですので、皆様のご意見を頂こうと思います。

(委員)

子どもの体力向上についての取り組みを計画の中には是非盛込んで欲しいと思います。

(委員)

小学校、中学校のPTAとして5年目になり、一番思ったのは、特に小学校から中学校に上がったときに、なかなか子どもの変化について行けない保護者が多いようです。

幸い私は、子どもがサッカーに打ち込んでいて親子で同じような考えでしたので、スムーズに行きました。

情けない話ですが、保護者というのは学校の先生に手放しでお任せしてしまっている現状があり、そこは何とかしたいとは常々思っていますが、何か良い知恵があれば採り入れたいと思っています。

(委員)

私は、子ども達は年配の人からの話しかけを案外待っているような気がします。

「今の子どもは・・・」という前に、こちらから挨拶してあげると、案外返事が返ってきたりします。

そういう中から小さな話題を子どもとすることによって、心が通じてものすごい親近感が生まれます。特に登下校以外の時間の子どもたちの遊びの場を通りがかったときには、逆に子どもたちの方から声がかかります。このことから、教育は地域が一体となって取り組むべきものだと思いますので、方法論、骨組みとしてのこの基本計画というのをしっかり作っていくことが大事だというふうに思います。

(委員長)

今、あることを思い出しました。何年も前ですが、当時の県教育長が言った言葉に「三つのコンビに一つの広場」というものがあり、学校の立場、保護者の立場、地域の立場、この三つのコンビが一つになって子どもたちを教育していかなければならないということなんです、そういうふうに連携していくことは大切だと思います。

(委員)

現在、大人も子どもも悪しき個人主義といいますか、みんなで知恵を出し合っってひとつの方向性を目指していこうというのが薄れてきているように感じます。

子ども達にしても残念ながらコミュニケーションが取りにくいと感じることが多くなってきていて、大人にしても、職場でもそういう人たちを、どう育てていくのが問題になってくることもあると思います。

あと、言われたことに従うことはできるが、自分で考えてしなさいと言われると途端に何もできなくなってしまう人が多く、今なお増え続けている現状にあって、問題が顕在化してくるのは時間の問題だと思いますので、小さいうちからそういう力をつけていかなければいけないと思いつつ、親子で色々な事を一緒にさせようと取組んではいますが、人集めに苦労しているような状態です。

余談になりますが、テレビで保育園のシリーズものを拝見しまして、小さい子どもというのは素晴らしい可能性を秘めていると、つくづく感じました。

今まで義務教育に携わっていましたが、できる子何人かに特別な指導をするというのはありましたが、全員ができることを目指すということが出来たら理想的だなと思いました。

加東市でもそういう教育に取り組んでおられる保育園があると伺いましたが、この先広がっていけば良いなと思います。

(委員)

私は、少年野球にずっと携わらせていただいていることもあって基本的に「あいさつ」というのが一番大事だと常々言い聞かせておりますし、見回り隊としても滝野東小学校で補導委員等、色々と勤めさせていただいております。

しかし、学校という場は未だに壁があり、また、先生方の異動等で築かれた信頼感・安心感をまた一から作って行かなければならなくなります。新しい先生がどのような考えを持たれているのか、掴めない内はどうしても色々な会議の場で問題等を話し合うにしても、何となく壁があるように感じることがあります。その辺ももっとスムーズにならないかと思えます。

そういう事も教育振興基本計画に織り込んで行けば良いのではないかと思います。

(委員長)

教育振興基本計画には開かれた学校づくりといった部分も是非盛り込んでいただきたいと思えますね。

(委員)

今までお話を聴かせていただきながら、大変ドキドキしております。今委員長がおっしゃった開かれた学校、市民に信頼された学校づくりということで、校長以下職員一同かなり力を入れて取り組んできたはずなのに、という思いを持って聴かせていただいて、「何か学校との壁を感じる」などのご意見は、地域の思いと学校の思いにはまだ少し温度差があるということのをこれを機会に聞かせていただけたと捉えつつ、では今この会の中で何を、というふうに考え進めていました。

先ほどのご意見にもありました「学校と保護者が連携して」という表現は、よく使われます。では一体何ができるのかと問われたとき、それぞれの学校が軸になる

ものを持っているはずですが、更に加東市としてこれに取り組もうじゃないかという一本の柱ができれば、それが加東市全体のものになり、それぞれの小中学校がそれに沿って一丸となって取り組んでいけると思います。加東市の「子どもが育つ」という目線がそういうところに一つあるなと思いました。

それと、やはり地域と一緒に育つ子どもをというところで、地域との色々な連携も各学校で工夫し、毎年改善しながらやってきています。けれども、実際そうすることで子どもの何が育ち、そして次の年度にどんな課題を継ぎ足してやっていくのか、という検討を、各学校単位では重ねているはずなのに全体での考察・分析はできていないのではないかと。そういうことが先ほどの私がドキドキした声になって出てきているのではないかと。だとすれば、この策定委員会の中できちっとした基軸となるものが明らかになれば、より子どもたちは豊かに育つのではないかと。というところに今行き着いているんですが、具体的なものを次回までに色々考えてみたいと思います。

#### (委員)

本日この場に出席させていただき、今後の加東市の教育について、できるだけ多くの方が違う立場の目線で意見を出し合うことが、いかに大切か、という点に気がきました。

これまで色々なお話をされた中だけでも、いくつかのキーワードが出てきたと思います。

まず、今後の教育振興基本計画を考える上で、「人間力の育成」に取り組んでこられた学校の教育現場、そのブレない分部分はやはり残すべきだと思います。

その柱を軸にして取組んで来られた学校現場というのは、加東市に住んでいるとその良さが分かりにくいと思いますが、県内の色々な地域の話を知っていると、加東市の教育がいかに恵まれているかを再認識します。

ですから、今後この良さをもっと外へ向けてアピールできる、ブレない部分プラス加東市ならではの輝く部分、強みを活かした何かができるれば良いなと思いました。

例えば、つい最近新しいシステムとして、幼保一元化の試行が発表されました。

これは実現化に向けて非常に壁が高く、2013年の実現を目指していますが、もし叶えば、現在共働きの家庭が多い中で非常にありがたいことだと思います。

また、先ほどのお話にもありました保育園の話ですが、実際に保育園で、小さな子どもたちが驚くべき体操をやってみせたり、学習に値することを「こんなやり方もあるのか」と我々が驚く新しい方法をやってみせたりと、我々大人の先入観を覆すことを平気で見事にやってのけておりました。

こういうシステムを幼保一元化の中で加東市が近隣自治体に先んじて構築することができれば、他市町に住んでいる方からは、今から子どもを産み育てるのであれば、「あの加東市に住みたい」と、加東市に住んでいる方からは、「働きながら子どもの教育を任せられる、この素晴らしい加東市にもっと住み続けたい」と思わせられるのではないのでしょうか。

「住みたい」「住み続けたい」と思われるような、魅力的な教育を目指していけたらと願っています。

#### (委員長)

それぞれの委員から具体的な部分についてお話いただきました。

私から一つ提案ですが、今日皆様から出していただいたご意見を踏まえ、事務局でたたき台を作ってください、次回からの会議資料とさせていただきます。いかがでしょうか。

#### (事務局)

本日お話を聞かせていただき、今まで気付いていなかった部分を気付かせていた

だいたと思っております。

本日いただいたご意見を、各担当で取りまとめ、一つのたたき台を作って行き、その中から目指すべき方向性が現れてきましたら、お諮りし、完成させていきたいと思っております。

(委員長)

今後の検討スケジュールの説明をお願いします。

④検討スケジュール（案）について

(事務局)

第2回会議 平成22年8月上旬

<内容> ①加東市教育振興基本計画（素案）について  
②意見交換

第3回会議 平成22年10月上旬

<内容> ①加東市教育振興基本計画（原案）について  
②意見交換

\*\*\*\*\* パブリックコメント（平成22年11月実施） \*\*\*\*\*

第4回会議 平成23年1月上旬

<内容> ①パブリックコメントを踏まえて加東市教育振興基本計画（案）について  
②意見交換

第5回会議 平成23年2月上旬

<内容> ①加東市教育振興基本計画の決定について  
②意見交換

第6回会議 平成23年2月中旬

<内容> ①答申

(事務局)

次回の委員会の日程ですが、8月上旬と考えております。日程については現時点では決定しておりませんので、決定し次第お知らせしたいと思います。

11.閉 会（教育長あいさつ）

色々な立場からのご意見をいただき、誠にありがとうございました。加東市からの教育振興基本計画諮問であるということ、「加東の教育」のスローガンは「人間力の育成」、その下に「向上心をもって学び合い、豊かな文化の薫る人・まちづくりを目指して」とあります。

教育は、人づくりであります。一方ではまちづくりでもあることを踏まえた仲立ちというものが必要であると思っております。

加東市のスローガンであります「山よし！技よし！文化よし！夢がきらめく元気なまち加東」が本当に充実して展開されれば、そこに居る子どもたちが、自分が好きで、家族が好きで、学校が好きで、そしてそこに住む人たちが、自分が住む地域が好きで、この加東市が大好きだ、というそんな暮らしになるのではないのでしょうか。

「住みたい」「ずっと住み続けたい」そんな加東市であって欲しいというのは、ここへお越しになった全ての方の願いではないかと思っております。その実現に向けて教育が果たすべき役割、どう目指すのかということが、これから皆様のお力添えで議論ができ、市民の皆様方に提示できることは、何よりこんなに嬉しいことはないと思っております。

次回までに色々なアイデアがありましたら、事務局までお寄せいただきますことをお願いし、閉会の言葉とさせていただきます。

午後 4 時 3 5 分 終 了